青崩治山工事業地の今後のあり方とＰＲ

飯田・遠山川治山事業所　○沢　口　蔦　夫
遠　山　　功

要　　旨

青崩の大崩壊地は現在，崩壊地面積全体の約80%が復旧されており，昭和初期から多額の投資がされている。そこで，青崩周辺の自然・歴史・文化等の背景をふまえ，復旧完了後の青崩治山事業他のあり方とＰＲについて考察した。

その結果，①施行地内へ遊歩道・東屋・展望台等を設置する。②中央構造線の位置を大きな看板で印す。③排土を利用し広場を作り，併せて資料館を建設する。④治山樹種を郷土樹種に替える。⑤各種イベントの開催。以上のような治山のモデル地区の構想を考えた。

これからの治山は，地域や崩壊地の特色を活かしながらＰＲをする必要がある。

は　じ　め　に

現在の国有林野治山事業は，比較的人里離れた山奥で行われているため，一般の人達に現地を見てもらうことは難しく，何を行い，どのようにして崩壊地が復旧されているか知られていない状況にある。そこで，当時業他周辺には全国的にも有名な秋葉街道や青崩峠等があり，入込者が多く施行地も人目に付き易いため，ＰＲをする条件としては絶好の箇所であると判断し提起した。

Ⅰ　青崩治山事業他の概要

1. 位置

当施工地は長野県の最南端に位置し，静岡県との境に接している。（図－１）

飯田市から53kmの距離があり,自動車で１時間40分程度である。

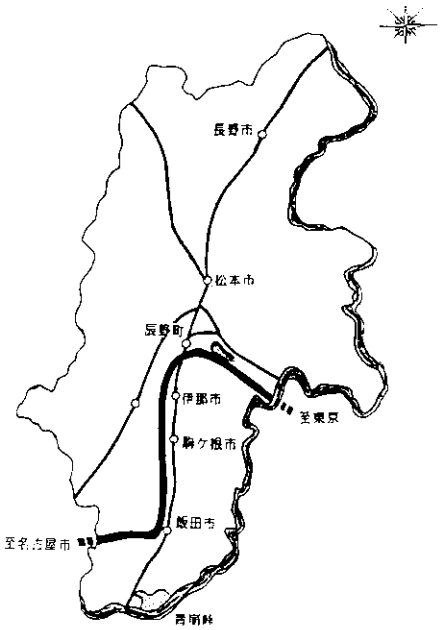
2. 気象

昼と夜の温度差が大きい内陸的特徴と，冬は飯田市に比べ暖く，降水量は夏に多い太平洋岸的特徴の，２つの要素から成っている。

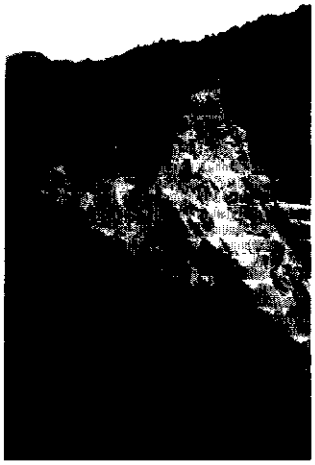
3. 植生

長野県の最南端ということで，ミズナラ・シデ類・ブナ類の落葉広葉樹。モミ・ツガ等の針葉樹。更には，アセビやイヌガヤ等暖帯性の常緑樹が一部混交するなど，多様な樹種構成を示している。

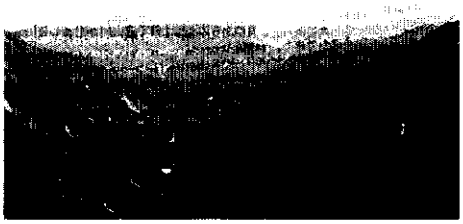
4. 地質・地形



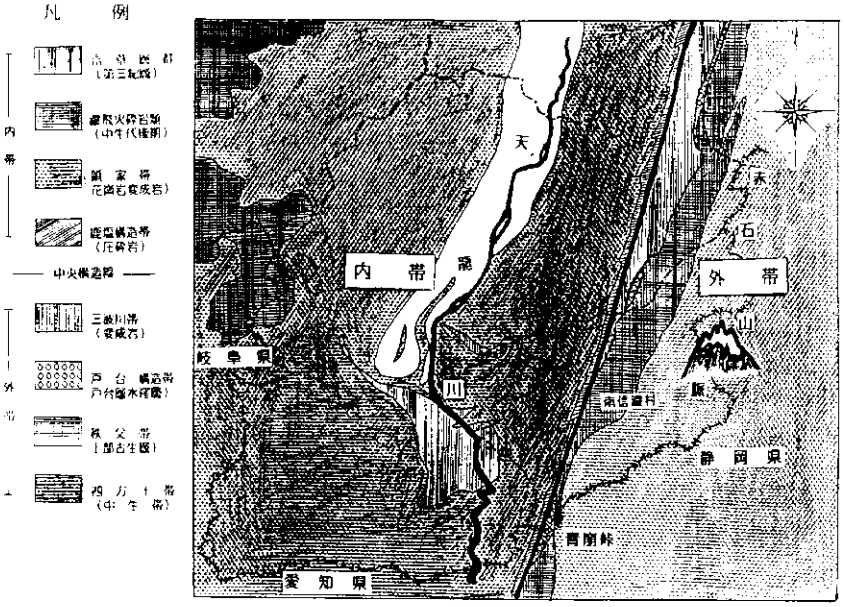
図－１　位置図



写－1　崩壊地内の中央構造線露出箇所



写－2　遠山谷遠望



図－2　飯伊地区地質図

大きな特徴として，崩壊地中央部を日本で最大の判層線である中央構造線が南北に走っている。（写－1）　地質は，構造線を境に，西側（内帯）は火成岩や変成岩，東側（外帯）は水成岩から成り，極めてぜい弱な地質である。（図－2）

こうした複雑な地質を反映し，鋭い尾根とV字の急峻な谷から長大な斜面を形成し，谷密度，起伏量とも大きく，露岩地，ガリーが発生しやすい地形となっている。崩壊地内の中央構造線上の県境の尾根から遠山谷を遠望したのが写－2であり，谷の西側（写真の左側）は火成岩類の地質のための長大で急峻な斜面を形成している。これに対し東側（写真の右側）は，堆積岩類の地質のため，貝殻を伏せたような地すべり地形となっており，中央構造線をはさんで内帯と外帯の地質の違いが地形に反映されているのがわかる。

5.　青崩と治山の歴史

表—1

青崩の歴史 摘要	元号	西暦	治山の歴史 摘要
大地震発生、山崩れ起こる（村誌）	正徳 5	1,715	
大地震発生、青崩からの流出土砂で遠山川が氾濫し夜川瀬という地名ができた。（村誌）	享保 3	1,718	
遠山骨談（東本願寺住職著）によると「屏風の如く青岩が幾千丈も立ちそびえる」と記されている。	寛政10	1,798	
	昭和 7	1,932	農林省直轄荒廃地復旧事業開始、静岡、長野県の作業員200余名出役
梅雨前線豪雨（489mm）新生崩壊地発生	昭和36	1,961	長野営林局直轄治山請負工事開始
24号台風（375mm）崩壊地拡大、中学校流失する。	昭和40	1,965	
	昭和41	1,966	長野営林局直轄工事作業員51名山治で開始
	昭和46	1,971	飯田営林署へ移管
	昭和58	1,983	直営工事から請負工事へ切替

表—2　治山実態状況

区分	渓間工	山腹工	金額	備考
既設	7基 2,521m³	27,0ha	10億7千万	運搬路 1,28km
残工事	3基 1,500m³	2,8ha	2億7千万	

青崩の大崩壊地は，いつ何によって発生したか，明確な記録は残されていないが，南信濃村誌によると，二度にわたり大地震が起こり，遠山谷の各所で崩壊が見られたと記されており，その時に青崩の大崩壊地ができたものと推定される。近年の青崩と治山の歴史は表—1のとおりであり，昭和7年に農林省直轄で治山工事が始まって以来，途中休止期間をはさんで，現在までに延べ34年間にわたって治山事業を実施している。

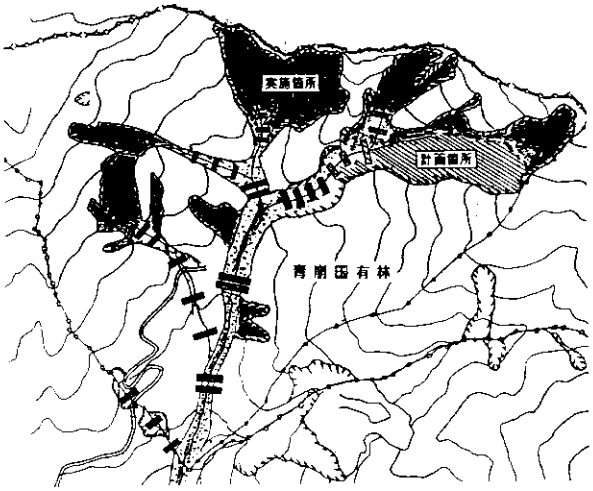
6. 治山施行状況

治山台帳から調査したところ（表—2）現在までに合計10億7千万円に及ぶ治山工事を実施しており，現在の物価指数に換算すると40億円以上となる。

施行地を見ると（図—3），現在までに崩壊地面積全体の約80％が復旧されている。

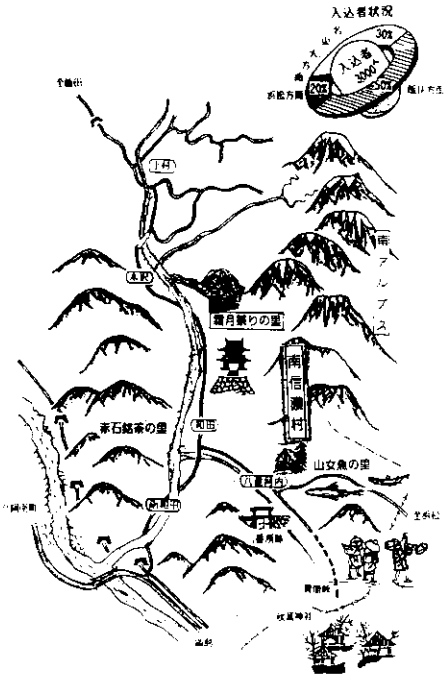
Ⅱ　南信濃村の観光と文化

南信濃村の観光・文化については図—4のとおりであり，村の特色としては，日本の屋根である南アルプス・毎年12月から1月にかけ，村内各神社で夜通し行われている霜月祭・戦国時代に武田信玄が兵を率いて三河へ駒を進めた道であり，静岡県の秋葉神社への参詣の道であり，水窪町へ通ずる生



図－3　治山事業の実施状況

写－3　村営宿泊施設「やまめ荘」



図－4　南信濃村の観光と文化

活の道でもあった秋葉街道等，自然・歴史・文化それぞれに特色があり有名である。

林業不振の現在，村としては観光に力を入れており，村の特色を活かしながら，青崩の入口である八重河内地区を『遠山郷せせらぎの里』と命名し，観光の拠点として，宿泊施設・農林水産物直売所・いろり食堂・つり堀・つかみどり・ゲートボール場等の諸施設を建設し，元年5月にオープンした。(写－3)。聴き取り調査をしたところ，オープン以来各地から約3,000人の観光客があり，その内訳は，飯伊方面から50%。東京・名古屋・大阪方面から30%。浜松方面から20%となっており，遠くは広島県からも訪れていた。

青崩峠は，飯田・下伊那・水窪を一望できる熊伏山の登山口でもあり，青崩峠へも昔をしのんでかなりの観光客がある。

現在国道の改良工事や，三遠南信自動車道の新設工事が着々と進められており，今後益々青崩地区へ訪れる人が増加するものと予想される。

Ⅲ　当署での治山のＰＲ実行経過

以上述べてきたように，青崩は地形・地質・歴史・文化それぞれに特色があり有名であるため，村としては観光の目玉の一つとして重要視していることから，治山のＰＲをするには絶好の箇所といえ

写- 4　治山教室開催状況

写－5　樹木名標示状況

写－6　看板設置状況

治山教室の開催

南信濃村広報へのＰＲ

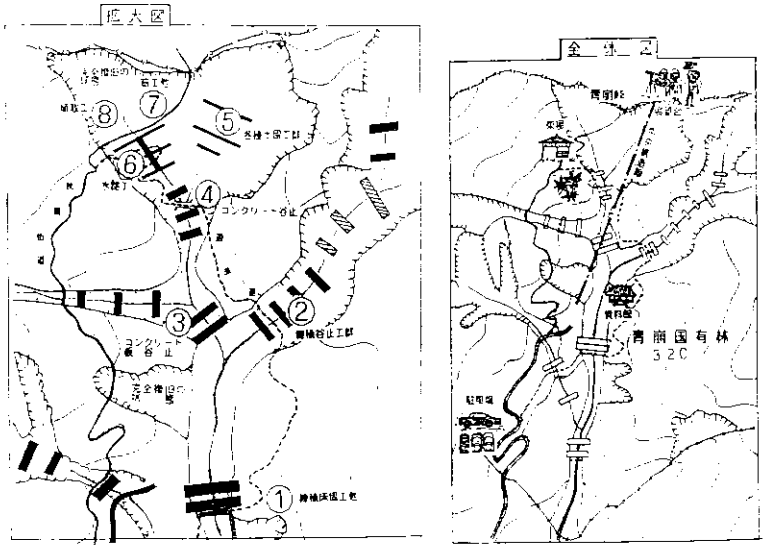
図－5　営林署の行った治山ＰＲ

る。従って，それらの背景をふまえ，当署の青崩国有林内で行っている治山事業について，様々な方法でＰＲをしてきた。現在までに行ったＰＲは，

① 地元村民を主体に治山教室を開催し，治山事業の歴史や工事の方法等について説明した。(写－4)

② 森林への関心を深めてもらうため，青崩峠までの秋葉街道沿いの立木へ樹木名を標示した。(写－5)

③ 施行箇所がわかるよう，施行位置や治山概要を記した看板を設置した。(写－6)



図―6　青崩事業地の今後のあり方

④　地元広報誌へ投稿し，青崩治山工事の経過や今後の取組み方，治山教室の実施状況を写真付きで紹介した。(図―5)

Ⅳ　青崩治山事業地の今後のあり方とＰＲ

以上のような4つの方法でＰＲをしてきたが，これだけでは一般の人達に理解してもらうにはまだまだ不十分であると考えられる。そこで，治山施行地を遠望するだけでなく，レジャー気分で施行地へ入ってもらい，素人でもひと目で治山が理解できるよう，営林署独自で治山のモデル地区の構想を考えた。(図―6)

1.　ＰＲに必要な施設

(1)　遊歩道・東屋・展望台等の設置。

ア．遊歩道について

施行地へじかに接し実感してもらうため，傾斜が緩やかで安全な箇所を選定し，既設構造物を利用して，①練積床固工→②コンクリート谷止工→③ＰＮＣ板谷止工→④練積谷止工→⑤各種工留工群→⑥水路工→⑦各種筋工群→⑧各種伏工群→⑨完全復旧の状態，というような治山事業の経過がわかるよう順を追った見学コースを開設する。併せて，各工種についての説明もそのつどわかるよう，看板や模型をそれぞれに設置する。

イ．東屋と展望台について

くつろぎながら崩壊地や遠山谷を遠望できるよう，秋葉街道と遊歩道の分岐点へ東屋，中央構造線上の尾根へ展望台を設置する。

ウ．その他の施設

今後観光客の入り込みが予想されるため，その受け入れ体制として，現在の宿舎跡地を整備して駐車場を開設する。

(2)　中央構造線の位置を印す。

崩壊地の特色である中央構造線の位置を大きな看板で印すとともに，展望台を利用して，地形の特徴や中央構造線のなりたち等を説明した施設を置く。

(3) 広場と資料館の開設

現在土砂に埋没している谷止を堀り出し，その排土 1,500 m³を利用して，650 m² 程度の広場を作る。その中に，治山の内容や歴史，現状がひと目でわかるような資料館を建設する。

(4) 保安林改良事業の実施

今まで行ってきた施行地には，ニセアカシア，ヤマハンノキ等の治山樹種が優占しているため，これをカエデ等の観光を考えた郷土樹種に替えていく。

(5) 各種イベントの開催

以上とり上げた施設を利用し，治山はもとより，国有林野全般的に理解を深めてもらうため，植樹祭や森林教室等の各種イベントを開催していく。

2. 構想に要する必要経費

表－3 施設の概要

区分	種別	数量		摘要
歩道等	遊歩道		1.080 m	転落防止施設を含む
	石畳敷歩道		150 〃	現地産
	展示施設		30 〃	鉄筋床固工
	駐車場		1.500 ㎡	元直営宿舎跡地利用
その他施設	資料館	1棟	180 ㎡	1部2階建
	東屋	1 〃	13 〃	間伐材使用
	展望台	1 〃	20 〃	鋼材使用
	便所	3箇所		ユニットタイプ
	野外椅子	20 〃		間伐材使用
	案内板	20 〃		木製
	説明炉	4 〃		鋼製
	吊橋	1 〃		1.5 m × 1.3 m
保安林整備	植栽工		6.0 ha	観光を考えた郷土樹種
	改良Ⅱ類		12.0 〃	植栽木及び天然林
	山腹工		0.1 〃	簡易な山腹工

構想に要する施設の概要は表－3に示すとおりであり，資料館の建設費によって差が出るものの一部2階建て 180m²の資料館を建設するとして，歩道等に 1,400 円，その他施設に 4,300 万円・保安林整備に 1,400 万円で，全体で 7,100 万円となる。

おわりに

近年，治山のＰＲが全国的に盛り上がっており，各営林局に『治山の森』が設けられている。その中には，実際には治山の必要がない箇所へ施行している所もあるのに対し,て当署の青崩は有名な大崩壊地であり，昭和の始めから34年間治山事業を続けてきた歴史があり，ありのままの治山を見てもらえる。さらに，当施行地は多種多様の工法で行われているため，治山のモデル地区にふさわしい箇所である。

今後もこれらの試案を土台とし，積極的に治山のＰＲに努めていきたい。

また，現在の治山事業は，復旧が完了したら撤退し，後は何も行われていない。従って地域あるいは崩壊地に特色のある箇所は，それらを活かしながら積極的にＰＲをする必要がある。